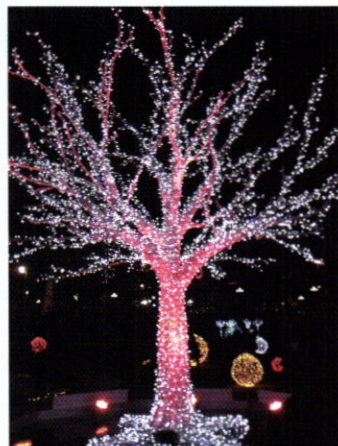


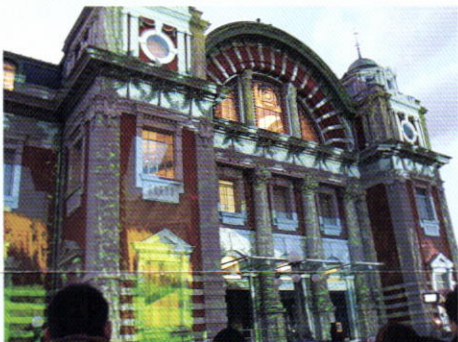


日本で一番アツイ場所！？ 聖夜に輝く中之島の巻

クリスマス前になりますと、全国各地でイルミネーションに熱が入ります。ここ大阪でも例外ではなくいろいろな場所で行われていますが、中でも徐々に規模と集客数を増やしているのが中之島！「OSAKA 光のルネサンス」という企画で、実は今年で9年目になるそうです。ちょうど年末の忙しい時期でもあったので毎年気にも留めてなかったのですが、中之島と言えば今や日本中から注目される橋下市長の本拠地・市役所もあり何かと話題の地…。周りの人の評価も上々なので思い切って見に行くことにしました。「どうせルミナリエのまねっこと違うの？」と特に期待はしてなかったのですが…。



市役所もきれいに電飾で飾られ、スタートを飾ります。ぐるっと一周で早くて1時間程のコースにはアーケード状に飾られていたり音楽に合わせて木の電飾が光ったり、巨大なトナカイの形の電飾があったり…それでも十分綺麗ですが、中之島図書館や中央公会堂という古くて文化的な建物に音楽に合わせて映像が映し出される演出はとっても楽しい！



↑建物に合わせて映像が変化
柱にツタが這ったり凍ったりします

綺麗だけではなく楽しさもあるので良い思い出になりますね。来場者を見ますと子供から、年配のグループなど若者カップル以外にも多く見られ、昨年は25日間で約286万人が来たというのもうなずけます。ルミナリエの342万人には負けているけれど、また見に来たい、と思えるものでした。

開催期間も12/14～クリスマスまでと長く、私の行ったイブはみなさんわくわく楽しい気分のご様子。大阪市民としては電飾で輝く市役所を見ながらつつい新市長の話題になってしまいました…。市政もイルミネーションも年々の盛り上がりを期待します。

健康法師の独り言 パート 38 『正露丸』は『征露丸』だった！

モノはついでということ、大幸薬品の柴田社長の話を続けま
すと…。

おなかのお守り『正露丸』の歴史は一〇〇年と古く、1904年の日露戦争開戦2年前辺りに作られたものだったそう…。当時の帝国陸軍のある軍医さんの調査で、広く陸軍全体で採用して日露戦争に持ち込んだらしい。そこでロシアを征するための薬『征露丸』と命名されていた。これが後に国際上好ましくない名前として商標権裁判で取り消され、結果『正露丸』としてとりなおしたらしい。ふうくん、なるほど確かに好戦的な危ない名前ですね。

ところがこの『正露丸』の商標権はさらに2008年に最高裁で取り消されることになったというのです。この丸薬は軍隊生まれで色々な人が各地で真似して作っていたらしく、内容物違いの『正露丸』が長年に渡って存在しており、『一般総称』であって、商標権として他を排除できないという事になってしまった。っというわけで『ラッパのマークの正露丸』という持つてまわった名前になっているというのだ。確かに、このラッパは陸軍の軍隊ラッパであり、テレビ宣伝に流れるラッパの音は軍隊の食事招集時の音だそうです。一〇〇年の歴史ある薬剤も、色々とご苦労が絶えないものですね。

日本のご家庭には必ずあるもの、モロゾフのプリンコップと正露丸。どちらもロシアと繋がりがああるもの様でして…。松前屋もロシア昆布でも扱いますよかねえ。。

健康法師



⇒デザインもあのニオイも瓜二つ…。左が大幸薬品さん